

上位安泰..か?

紙相撲新聞

第148回本場所
初日~三日目号

編集・発行
日本紙相撲協会

朝日松新理事長 まずまずの船出

初日二日目横綱大関全勝は十年ぶり

【第百四十八回本場所初日〜三日目】

第148回紙相撲本場所は諸事情により1月開催予定の初日が急遽延期となり、1ヶ月遅れで2月9日に初日を迎え雪の舞う厳しい真冬の空模様なか幕内と十両の三日目までの取り組みが寒さを忘れさせる程の熱戦を期待する全国の熱狂的な紙相撲ファンに今年初の平成最後となる本場所が開催され今年も紙相撲の幕が開けた。



↑今場所から理事長に就任した元大関綱乃花の朝日松親方の初挨拶。
2横綱2大関を従え、朝日松時代の記念すべき第一声を発した。

↓国技館の優勝額も4場所振りに差し変わった。左から白閃光、英筏、美空富士、魁電。ついに最多優勝の英の雄姿が消えた。



一方の若ノ嶋は初日の出で前に出る鋭い出足を差し込みながらも攻め込み右をきいて初日を白星に切り切った。二日目の出羽戦では三度の取り直しのあとこの一番でも鋭い踏み込みを見せ、の押し出しで2連勝した。3日目は阿古川と対戦し、立会

今場所から理事長を務める朝日松親方。現役時代から名大関として慕われ、その人望には定評のあるところ。初日の協会挨拶でも、紙相撲愛が溢れる内容で、観客の心を震わせた。紙相撲道にひたむきな朝日松理事長だけに、今後は一層立ち合いの正常化、不祥事の撲滅が進むことであろう。

さて初日から3連勝の好スタートを切ったのは横綱美空富士、大関春ノ翔、平幕の超刃、支那虎、若剣、虎風、生駒山、磯光の8力士。初開催日のこの日は横綱大関陣が安定した取り口を見せ4人全てが3連勝とはならなかったが、二日目まで土がつく事はなくまずまずのスタート



美空富士○(寄り切り) ●玄武岩

翌三日目は水晶嶽と対戦し立会いから強烈な右で出足を止めると、押し付けから、押付けの差先よく3連勝と切り切った。最近では左を差した層安定感が増し深みを感じさせる。場所前にはかなりの稽古をした模様で締め込みも新調して賜杯にかける思いが全身から漲っていた。

二横綱の引退で今場所は横綱となつて迎えた今場所。所なんとしても先場所の汚名を返上させたい両横綱美空富士は初日に新鋭出羽翼の挑戦を受け、左を許すも土俵中央で出足を封じ、落ちて引落し。続く二日目は白星発進。続く二日目は玄武岩の強烈な右の押し付けに土俵一週ほど凌ぐと最後は腰を落とす引落しに降し2連勝。

で協会陣をほっとさせた。最近の鞍ノ城の三場所不休もあるがそれを差し引いても横綱大関陣による2連勝も進網、実に第121回場所以来10年ぶりの事となつた。

第148回本場所星取表

美空富士	横綱	若乃嶋	幕
春ノ翔	大関	白閃光	電
英筏	関脇	白賀ノ海	照
玄武岩	小結	大神楽	の
水晶	出羽	出羽	電
超刃	前2	阿古川	盛
朱雀	前3	剛力山	藤
夢力	前4	剛山	丸
四季	前5	源兵丸	虎
鹿富	前6	支那虎	昇
月若	前7	大江	武
若剣	前8	磯角	乃
富士	前9	花風	武
虎	前10	琴	蔵
鬼	前11	綱	王
黒	前12	生	蔵
磯	前13	初	山
三	前14	鳥	戸

天虎	我	十	電	幕
喜	國	一	照	王
磯	威	二	の	電
達	感	三	電	盛
若	燕	四	葵	藤
大	士	五	日向	山
紅	巨	六	男女	洲
葉	櫓	七	桃乃	動
劍	盛	八	龍不	雪
鯉	灘	九	太	鳳
若	潮	十	櫻	吹
冬	柱	十一	磯	丸
若	丹	十二	日	郷
響	佑	十三	喜	乃
	龍	十四	鹿	軒
			雪	丸



玄武岩●(寄り切り)○春ノ翔



若乃嶋●(引き落し)○阿古耶